

DOKU-GAKU

— 読書を楽しむ会 —



4月標準号 vol、4

目次

メンバー紹介	2
あみちゃんの廃墟遊戯―第1回	3
がみちゃんの映画道 その1	6
特別企画 ― 私の好きな作家・作品	7
健ちゃん出版社テレカ	14
コレクション ― 第2回	
読書リスト（2000年2月・3月）	17
がみちゃんの映画道 その2、その3	19・23
アルバム紹介 ― かよこちゃんによる	24
Mr. Children「深海」の紹介です	
表紙は語る	24
DOKU－GAKU掲示板	25
次号予告	28

読書を楽しむ会メンバー紹介

〔NAME CODE〕

001	会長	健ちゃん	fwnx7968@mb.infoweb.ne.jp
002	会員	がみちゃん	FAX 045-573-5440
003	書記・総務	あみちゃん	ami77@infoweb.ne.jp
004	会計・企画	ちかちゃん	chicako@shogo.com
005	副会長・総務	かよこちゃん	kayokoma@infoweb.ne.jp
006	相談役	うさお	ismasuda@infoweb.ne.jp
007	会員	yukoさん	shiro@hi-ho.ne.jp

祝・新会員 y u k o さん

浜田省吾さんが連れてきてくれた、ちかちゃんのメール友達です。

－ y u k o さんの挨拶－

『はじめまして… chicako さんのお誘いで仲間に入れて頂く事になった、yuko です。

1952 年 12 月生まれの 47 歳…生まれも育ちも広島という生っ粋の広島っ子（?）。

年の割には柔軟な頭を持っていると思っているのですが…書くのも読むのも大好き！
という点では、多分皆さんの同類だと思います。どうぞ宜しくお願いします。』

－新会員 y u k o さんを迎え、新たな気持ちで旧会員さんたちも

自己紹介をしたいと思います。－

あみちゃん スガマニアそしてハルキストの DOKU-GAKU 最年少会員。

（えーと、ちなみにスガマニアというのはスガシカオを愛する人々の総称、
ハルキストは村上春樹ワールドにどっぷり浸ってる人々のことです。

がみちゃん がみちゃんは、いくつになっても荒野をめざす。

こだわりの強さ、偏りの度合いは誰にも、ひけをとることもなく
今日もがみちゃんはわが道を行く。 ←ちかちゃんの紹介文。

ちかちゃん PCを買って、5ヶ月。たくさんの師匠の教えの元、何とかやっています。
でもたまには、PCを捨て、書を捨て町に出なければと身体を見てあせる
今日この頃。

かよこちゃん ミスチルッ子でモトさまフリーク。

新たにあみちゃんのあとを追って、ハルキストをめざしています。

廃墟遊戯

今回から始めました新コーナー「廃墟遊戯」では、廃墟・戦跡探訪を趣味とする
あみ会員（No.003）がいままでに訪ね歩いた廃墟の数々をご紹介します。

なお、このコーナーは不定期連載です。

第1回 猿島要塞

（神奈川県横須賀市／明治17年6月30日完成／設計 陸軍臨時建築署築城部／施工 工兵隊
／建築様式 ロマネスク様式、フランス積み煉瓦造りボールド構造）

☆猿島とは？

猿島は横須賀沖に浮かぶ無人島。

この島は東京湾ののど元に位置するため観音崎、千葉の富津岬とともに東京湾の重要な
海の守りとされ、幕末、明治初期、昭和と3回にわたって砲台が築かれている。

明治10年頃からは旧日本陸軍により要塞が築城され、猿島は軍事施設を擁する要塞島として
半世紀にわたり一般人の立ち入りが禁止されていた。

現在、島内に残る兵舎や弾薬庫、砲台跡、さらにそれぞれの施設を結ぶトンネルはすべて
この要塞時代の名残である。

猿島に残る煉瓦造りの建築物。文明開化とともに長崎から全国に広まった煉瓦建築には
明治20年頃から広まったイギリス積みと、それ以前から採用されていたフランス積みの
2つの技法がある。この両方をあわせても日本に現存するのは22棟。フランス積みのものに
限るとたったの4棟。猿島はこの貴重な建築物が見られる数少ない場所のひとつなのである。

☆上陸！



←三笠公園を出た船は、猿島の砂浜から延びる栈橋に着く。
栈橋から道なりに進み、左手にある建物は旧指令本部。
現在はボイラー室になっているが、コンクリで塗りこめられた
煙突からところどころのぞく煉瓦にかつての姿が偲ばれる。



←さらに進むと石造りの切り通しにでる。

堀割には木の根っこがよきによきと延びてへばりつき、頭上は木で覆われている。

さっきまでは汗ばむほどだったのに、ここに来るととたんに空気がひんやりとする。部分的に煉瓦造りになっている部分が入り口。内部は弾薬庫。



↑猿島には3つのトンネルがある。切り通しからまっすぐ進んでいくと見えてくるのが、いちばんおおきなトンネル（写真右上）で、司令部、兵舎、弾薬庫が入った要塞の中核だった。トンネルの中に入ると左手にいくつか建物への入口があるのがわかる。建物への入口は現在ではすべてベニヤで塞がれており、内部を見ることはできない。ベニヤの隙間から覗くと、石造りの階段が見えた。内部は1 2の部屋があったという。



↑前頁のトンネルをでると3つのトンネルすべての出口がぶつかる三叉路になっている。それぞれのトンネルは通路と施設への入口という2つの役割があったようだ。



←島の北端には洞窟がある。

ここには、日蓮が住んでいた、大蛇が住んでいた、さらには江ノ島の岩屋まで続いているなどの伝説があるが、どれもうさんくさい。ほんとうにこの洞窟の住人だったのは縄文人だそうだ。洞窟の中は真っ暗なので、自分の手すら見えないというかなりの不安感を楽しむことができる。

最終の船は午後5時頃。無人島での野宿は心許ないので乗り遅れないようにしましょうね。

*猿島で遊ぶ！

猿島ではほかにもこんな遊びができます。

- ・海水浴 — 夏には浴場として開放されています(でも浜は狭いです)
- ・釣り — クロダイ、アイナメ、カレイ、スズキなどが釣れる、釣りの穴場らしい
- ・バーベキュー — 食材さえ持っていけば、道具は島のレンタルショップで一式借りられます

*今回のおみや：「横須賀海軍カレー」2食入¥800

いま横須賀は「カレーの街」として町おこしを行っています。商店街もカレー一色。この「海軍カレー」も横須賀周辺に行けば買えると思います。わたしは三笠公園にある記念艦三笠内の売店で見つけました（ちなみにこの売店では自衛艦カレンダーなども売っていました）。肝心の味ですが、これがなかなかおいしいです～。

***アクセス：**京急横須賀中央駅から徒歩10分、三笠公園内三笠桟橋から船(運賃往復¥1200)で15分。始発 8:30・最終 5:00、30分毎に運航。

[撮影 あみちゃん]

おすすめの、1本！

<ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ>

2000. 2. 9 渋谷シネマライズ

嫁になる前は、仕事が終わってから、映画を見に行っていたので、来ている人はあんまりいないし、連れ立ってきている人もあんまりいなかった気がする。いまは、午前中の映画館は主婦の味方。もちろんカップルもいれば若い子も一人で来ている人もいるけれど、大半は主婦と思しき人たち（私も含めて）。楽しそうに旅行の話や子供の話をしている。まあ、いいんだけどね・・・。

話題の映画、面白そうな映画に彼女たちは貪欲です。

キューバ音楽が好きっていう人、興味を持っていた人、もちろんいるでしょう。

でもキューバ音楽なんて知らなかったって人も多いと思う。（もちろん私も・・・でも私の好きな音楽だった。だってラテン系なんだもの。でもソウルママでもあるんだけど・・・）

ストーリーも何もないから途中退屈するし、眠たくもなる。

（これは私だけ？事実心地よく寝てた。）

でも彼らの生演奏を聞けないんだもの。映画を見に行くっきゃないでしょう。

彼ら（キューバ）は貧しい。でも陽気で、ある意味純粋。

年をとったことさえも私にはうらやましかった。

ということで、映画面白いんだけど、好きなら見ればって感じかな・・・音楽と彼らは最高！！

話	この際関係なし（でも所々は泣ける）
人物	☆☆☆☆☆（あえて5つ）
映像	☆☆☆（しわさえもかっこいい）
音楽	☆☆☆☆☆（最高）
総	101点



ちなみに、『栄光のル・マン』『天井桟敷の人々』『ブルースブラザーズ』
『バニシング・ポイント』は120点。（満点以上）

<読売新聞評>

高齢なミュージシャンを扱った作品。ドイツ人監督ヴィム・ヴェンダースの作品で、キューバ在住92歳や70－80代の音楽家を中心としたバンドのライブ活動を丹念に追っている。

とにかく、高齢のミュージシャンが渋くてかっこいい。配給を担当している日活でも、『観客の層は10代から60代で幅広いが、特に若者はロックのスターを扱った作品のような感覚でこの作品を見に来ているようだ』と話す。

4月号特別企画

〈私の好きな作家・作品〉

～DOKU-GAKU会員の皆さんに聞きました～

004ちかちゃん

山本 周五郎	有名な小説は、長編に多いのだろうけれど、私は短編が好き。 といっても、いまどきの短編のように軽くはない。また、時代小説といっても読みにくいこともない。 話を深読みすることもなく、作者の気持ちなんて考えることもなく、読んでいるときは、すっかり江戸時代の女に浸る。男と女の関係も今と基本的には変わりはないのに、『恋愛話』だけに終わらない。どうしようもない男や女たちの気持ちまで、そうかもね、なんてわかってしまう。情に流されることがあったっていいじゃない、正しさばかりじゃ疲れるよ、といいたくなる日にはもってこい。
金子 みすゞ	いまどき、小学校の教科書にも載っている詩人。この人のものの見方が優しくて好き。見ている自分の心だけでなく、自分を見ているものの目線から書くところが好き。動物はもちろん、魚にも木にも草にも、空にも土にも、雪にも雨にも感情があって、心と耳を澄ましていれば、その声や言葉が聞こえるものなのかもしれない、と読み終わったあとは恥ずかしいほどの感傷的な少女に変われます。
萩原 朔太郎	嵐山光三郎著の『追悼の達人』という本の中での、草野心平の朔太郎への言葉。＜愛や猜疑や嫉妬や不安や敵愾や、こらえられないほどのさびしさの歯の食いしばりがほっぺたに表れ＞た人。その風貌を思い描こうとすると、芥川龍之介とダブってしまうけれど、朔太郎の暗さというのは、圧倒的だった。その暗さが好きだった若い頃の感受性が、今となっては懐かしい。
瀬戸内 晴美	伊藤野枝とか神近市子とか平塚らいてうとか、そのころの女の人を書いたものが好き。異性関係で刃傷沙汰になったりしても、そこに潔ささえ感じてしまう。元始女は太陽だったのですよ。
ビル・バリンジャー 「歯と爪」	話自体は、「面白かった！」という事しか覚えていないけれど、最後に読者への挑戦が袋とじになっていて、返金保証がついていた印象的な本。
清岡 卓行 「海の瞳— 原口統三を求めて」	今では茶色に変色してしまった本。『二十歳のエチュード』という本を残して自殺した原口統三への鎮魂歌。＜おまえが書かなければ、誰が書くのか＞という思いから、友人たちの証言などを集め、原口統三の死から四半世紀が経ったのち、出版された。 清岡卓行は青春の一時期を一緒に暮らした原口統三の死に、後悔や苦渋に満ちたものを長い間、抱え続けた。原口統三のように自殺できなかったことに対する後ろめたさや、原口統三を死なせてしまった悔いは、四半世紀という長い年月をかけなければ友人の死を振り返ることが出来ないほどのものだったんだろうと思う。原口統三のことは、読書リストに。

※ 清岡卓行とB・バリンジャーは『好きな本』になってしまって、すんまそん。

003 あみちゃん

～すでにこの世の人ではない方々～

坂口安吾	「墮落論」は私のバイブル。会う人みんなに自腹でプレゼントしたいくらい。 「不連続殺人事件」のおもしろさが色褪せることはないと思う。異常に個性的で奔放なキャラ…、たまらない。 「桜の森の満開の下」の残酷なまでの美しさには身震いするほど。
谷崎潤一郎	谷崎は一時期ものすごくはまった。いちばんはじめに読んだのが「痴人の愛」で、そのあとは新潮文庫から刊行されてるものをはじから読んだ。「細雪」は当然読んだし、「陰翳礼賛」まで読んでいる。我ながらすごいと思う…。
吉行淳之介	「恋愛論」は吉行の恋愛観とか女性観が垣間見えておもしろい。 「夕暮れまで」とか「驟雨」とか読んだけど、内容は理解できてるのか…！？
色川武大	「麻雀放浪記」の阿佐田哲也としても知られている、色川武大。 色川武大名義のものしか読んでないけど、“無頼”って感じがカッコいい。
夢野久作	「ドグラ・マグラ」はすごい。凄絶というか、なんというか。絶句。 “これを読むと気がふれる”という噂がたったというのも納得。 「少女地獄」も底無しに暗くて、読むと呪われそう…。

ーこの他にもー

- ・ 太宰治はやっぱり基本でしょうね。そのわりに意外と読んでないんだけど。
- ・ 室生犀星も地味ながらい。

～まだまだこの世でがんばっている方々～

村上春樹	「物語を読むこと」＝「ストーリーを追うこと」だと思っていた私の考えをあらためさせてくれた。 ほとんどの小説は、物語と自分とのあいだに一定の距離が保たれている感じなんだけど、春樹さんの物語はその境界を越えてからだのなかにするっとすべりこんでくるような感覚がある。
ポール・オースター	オースターの描く、失われていくものたち、喪失感、焦燥感、「私」とは何か？というテーマに惹かれるのかも。オースターの物語も何かしら皮膚感覚に訴えかけてくるものがある。 「最後の物たちの国で」も捨てがたいけど、やっぱり「ムーン・パレス」がいちばんすき。こうしてオースターの小説を日本語で読めるのも翻訳者の柴田元幸先生のおかげ。まるではじめから日本語で書かれたかのような名訳。

ーこの他にもー

- ・ 最近では、高村薫なんかも読みごたえがあつておもしろいとおもう。いまは初めて女性を主人公にした物語を執筆中とのこと。
- ・ 馳星周の「不夜城」がおもしろかった。



002がみちゃん

<昔の人ベスト5>

- 芥川龍之介　きれいな文章。その上、奥が深くって嫌みがなくて好き！
山本周五郎　人情味あふれる話。
司馬遼太郎　歴史にはいろいろな見方があることを教えてくれた。
池波正太郎　文中に出てくる食べ物がすごーくおいしそうで食べたくなる。
岡本　綺堂　江戸情緒あふれる雰囲気。小気味いい江戸っ子の会話がいい。

<今の人ベスト5>

- 宮部みゆき　読み応えのある長編を待っています。
東野　圭吾　目のつけどころが違う。私をびっくりさせてください。
逢坂　剛　かっこいい話です。
篠木　蓬生　もう恋愛小説は書かないでください。
新保　裕一　ひたむきでまじめな人の話、好きです。

作家って、この本は好きだけどこれは嫌いってあるよね。一貫性があるのって昔の人のほうが多かった気がする。あと、ピカソみたいに違うタッチになったり…。それはそれでいいんだけど。

だから思い入れる作家があまりいない。思ったよりのめりこんでいないことに気がついた。

でも、一冊の本によってその作家が生涯忘れられない人になることもある。

そんなことってたらきりないのかしら？だから、もう少し記憶の中の本をひっぱってみました。

カミュ　「異邦人」

カフカ　「変身」

訳わからないんだけど、哀れさとか切なさが一人ぼっちの私の心に　しみてしまった。

ヘルマン・ヘッセ　「車輪の下」

ヘッセの二部作(私が勝手に決めた)背徳と美德の世界が恋を知らなかった私に突き刺さった！

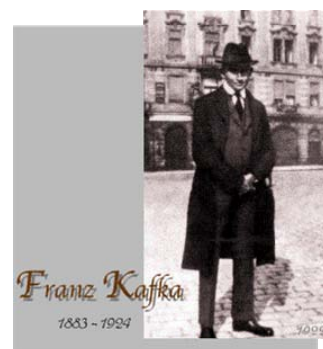
太宰治　「津軽」

優しさに満ち溢れた故郷への思い。何がなくとも　『たけ』　だけはいてくれた安心感。
そして憧れの十三湖。

？　「五人と一匹探偵団」

思えばこの本が初めての推理小説だった。

子供にも読ませたいんだけど、ちっとも読んでくれない。



007yukoさん

L・M・ モンゴメリー	私の本を読む、空想する、そして書くという無限の楽しさを教えてくれた、まさに原点とも言える人。 少女時代に誰でも一度は出会う赤毛の少女アン…私も彼女の魅力に取り憑かれた一人ですが、大人になって、再び読んだ「アン」のシリーズは、以前にも増して私を虜にしてくれました。アンだけではなく、「エミリー」、「パット」・・・ モンゴメリーの描く少女達は、それぞれの個性を持って私を魅了し続けています。
津村 節子	津村節子のどの小説がすき？と聞かれると即座に「海鳴」と答えられるのですが、その他のものは、はっきりいってそれほど印象深くはないのです。 それなのになぜか好きな作家は？と言われると、決まって一番に名前を挙げてしまう。彼女の考え方…社会の不条理の中に、身を沈めていった女達を、声高でなく淡々と描く…（どちらかといえば暗いかも知れないけれど）彼女が描く薄幸な女達は、皆優しく、そして凜としていて、やっぱり好きなのです。 はじめて読んだ本「冬の虹」
吉村 昭	歴史的小説、実話に基づく小説「破獄」「フォン・シーボルトの娘」「海も暮れきる」などが好き。これほど詳しく小説化するためにはきっと何年も取材旅行に費やしてるんだろうと感心してしまいます。 夫人の津村節子に言わせるとこの人ほどだめな夫はいないのでは…と思ってしまうふしもありますが、まあ才能ある人なので、そんな所も許してしまうのです。 はじめて読んだ本「星への旅」
渡辺 淳一	映画化されたり話題になった本ではなく、医学者としての彼の目から見たものが好きです。一番好きなのは、「白き旅立ち」志願解剖の第一号となったのは、美幾という遊女だった。という文につられて買った文庫本… どうも私はこの手のものに弱く自分でももしかして、前世は薄幸の遊女？と考えてしまうほどなのです。 これ一冊で、渡辺淳一を好きになるには充分でした。 後に話題となった、「別れぬ理由」「失樂園」そして、野口英世という人の見方を根本から変えてしまった「遠き落日」そういった本の好き嫌いは、別にして、「白き旅立ち」の中で、美幾という女に見せる彼の優しさ、温かさが、好きなのです。 はじめて読んだ本「午後のヴェランダ」
時実 新子	川柳作家…はじめて読んだ句集「有夫恋」の、何と情熱的で、何と激しく、そして何と人間味を帯びていることか…私は“新子川柳”の虜になり、自分でも思い付くままを川柳にしてノートにしたためのものです。 こんなこと詠んでいいの？と言うような言葉さえ、彼女は平気で発します。 夫有る恋…題名もまた、魅惑的です。 主婦という名の腕時計何度見る くずされし髪を束（つか）ねて母となる 一人殺せと神のゆるしがあれば君 ブラックコーヒー女がさめてゆく過程… 好きな句を挙げればきりがなくらいです。

005 かよこちゃん

人生、このくらい長い間生きていると、今までに「はまった作家」の何人かはいるものだなあと
思い当たります。今、同じ作家の同じ作品を読んで同じような感動があるかはわからないけれど、
その時の感動をなつかしく思い出しながら書かせてもらいました。

小説を読みながら、この人のこういう感じ方が「好き」だと思い、次の作品、次の作品へと引
張られていくうちに、その人そのものを深く知ったように感じてしまう。そして改めて「好きだ
なあ」と思ったとき、すでに「はまっている」状態の自分に気付く……………この先何人のそうい
う大切な人達に出会えるか、ほんとうに楽しみです。

大江健三郎

経歴紹介	1935年1月31日 愛媛県喜多郡大瀬村に6人兄妹の3男として誕生。 故郷の村は作者の原風景として「谷間の村」の呼び名で作品中に 数多く語られている。 1957年 大学在学中に「奇妙な仕事」を発表。作家デビュー。 1958年 「飼育」にて芥川賞受賞。 1961年 問題作「セブンティーン」発表。 1963年 長男光君誕生。 1964年～ 光君誕生がなければ存在しなかった小説群を発表して行く。 「空の怪物アグイー」「個人的な体験」………… 1994年 ノーベル文学賞受賞。 小説執筆終止宣言。文化勲章辞退。 1999年 「宙返り」によって、休止していた「小説を書くこと」を再開。
心に残った 大江作品	「個人的な体験」 「万延元年のフットボール」 「洪水はわが魂に及び」 「我らの狂気を生き延びる道を教えよ」(エッセー)
大江健三郎が 愛する詩人・ 作家たち	現在はスピノザを読んでいるということが、エッセーなどによく書かれている。 3年くらいのサイクルで一人の作家を集散的に読んでいくスタイルのようだ。 他にW・ブレイク、W・H・オーディン、W・B・イェーツ、N・メイラー、 J・アップダイクの詩、文章が小説の中に多く引用されている。 大江健三郎は引用の多い作家として、批評家たちから非難を受けることもたび たびらしい。
～オーケンあれこれ～ もう遠い遠い昔？高校生時代に愛読した作家。60年代後半～70年代にかけての時代というも のものずいぶん影響したのではないかなと思う。若い人たちが好んで大江健三郎、高橋和己、吉本隆 明等の作品を読んだ時代だったんじゃないかな？ 76年の「ピンチランナー調書」までは、小説、評論、エッセーとやみくもに読んだように思う。 今となっちゃ、なんにも覚えていないのが辛いところだが、新聞などで、他の作家との対論を読 んだり、海外の作家との往復書簡を読んだり(これ、読みにくい！)、最近では柳美里の盗作問題で ちょっと話題にもなったりで、彼の小説を読まなくなった今でも文章にふれる機会は割合ある。 彼の作家としての真面目な態度、人として真剣に生きる姿勢をそういった文章に触れる度に感じ てきた。真面目過ぎる、真剣に生き過ぎる(そんなことあるの？)そんなふうになら感じられてしま うしまうほどの不器用さがとっても好きなのです。	

ウィリアム・アイリッシュ

経歴紹介	(1903～1968) 本名コーネル・ウールリッチ。ウールリッチ名義の作品も数多くある。アイリッシュの実生活は、はっきりとわかっていないが、母親に支配された悲劇的なものだったらしい。しかも彼はその母親が自分を理解してくれる、唯一の人間だと信じ、一度結婚したもののすぐに母親のもとへ戻っている。ホテル暮らしを生涯続け、母親を亡くしてからの晩年は作品もぱっとせず、経済的にも困窮し、アルコール漬けとなり淋しく暮らしたという。不遇の一生と言えるが、その代りに彼の生前の望み〈自分が死んでも自分の作品が忘れ去られないこと〉は永遠に叶えられた。
主な映画化作品	「裏窓」 監督アルフレッド・ヒッチコック 主演ジェームス・スチュワート、グレース・ケリー 「黒衣の花嫁」 監督フランソワ・トリュフォー 主演ジャンヌ・モロー 「暗闇へのワルツ」 監督 フランソワ・トリュフォー 主演カトリーヌ・ドヌーブ 日本でテレビドラマ化されたものも数多く、「黒衣の花嫁」「暁の死線」などがある。
大好きな アイリッシュ作品	「喪服のランデブー」 飛行機から投げ棄てられたコーラの瓶によって命を落した恋人を忘れられず、その乗客たちに復讐して行く、言わばリベンジものなのだが、その印象よりも、キラキラ光る瓶のかけら、死んだ恋人に会いに行く風に揺れる草原、奇麗で優しいシーンの方が圧倒的に印象に残る。萩尾望都さんの絵柄を彷彿とさせる純愛が、せつなく描かれている。 「暁の死線」 若い女の子はダンサー。都会での唯一の友達は、ダンスホールから見える時計台だ。そこにやってきた若い男の子は、同じ田舎の同じ町の「隣の男の子」だった。ふたりは手を取り合って故郷へ向かう朝6時の始発バスに乗る決意をする。各章に時計の絵が挿入され、刻々と残された時間が少なくなっていく。それまでに片付けねばならないことがある！サスペンスフルで感傷的。ほろ苦くてせつない。 「暗闇へのワルツ」 ♪自分を犠牲にしても守るべきものはただひとつ君なんだよ♪って感じの裏切られても裏切られても女につくす男の純愛物語。 不幸と見るか幸せと見るか、それは個人差があるとして、一途な恋心はやっぱ胸を打つのです。
～アイリッシュあれこれ～ アイリッシュは短編の名手としても知られ、その作品も数多くあるが、私的には長編の方が断然好きだ。出来不出来の激しい作家で「こんなつまんない」という作品も残念ながら多い。アイリッシュ作品の魅力は、独特の流れるような、レトロ感覚を感じさせる語り口によるところも大きい。原文を読んだら韻を踏んでるんじゃないの？と思えるような詩的な文章たち。とてもいい翻訳者に恵まれたとも言えるのかも知れない。（「夜は千の眼を持つ」のように、聞いただけで想像力を刺激されるタイトルもある。小説としてはイマイチだけど。）そしてまた、アメリカの渇いた風景の中にいる登場人物たちが、何故か日本人好みの哀愁を持っている。そのシチュエーションはとても視覚的で、漫画チックで、甘くせつない。晩年に「夜の闇の中へ」という作品を書き始めるが、書きおえることなく他界してしまう。後年若手作家により加筆され出版されるが、発想の面白さしかない不出来な作品のように思える。晩年の不遇を象徴するようで、ちょっとやるせない気持ちにさせられる。	

有栖川有栖

1959年生まれ大阪出身の多分あまり有名でないミステリー作家。

エラリー・クイーンら、古典的海外本格ミステリーの流れを組み、現在ミステリーの主流を占める〈心の闇〉系とは一線を画す。

有栖川作品が好きというより、彼が創造した「学生探偵江神二郎」がとっても好きなのだが、作者に愛されていないのか、読者に評判が悪いのか、もう何年もとんとお目にかかっていない。江神シリーズの復活を祈って、ちょっと江神さんの事、聞いてください！

江神二郎 プロフィール	英都大学推理小説研究会部長。文学部哲学科在籍。 浪人と留年を繰り返した結果「長老」と渾名される。長身。長髪。 ヘビースモーカー。銘柄はCABIN。生っ粋の京都人。 兄がいたが、19才で死亡している。 18才のとき、両親が離婚、それ以来西陣で下宿生活。 母親は20才の時亡くなるが「お前は30才を迎えずに、父親より先に死ぬ。 多分学生のまま。」と、予言を残す。 推理研の仲間であるアリス(男性です！)をワトソン役に、望月周平、織田光次郎の4人組が難事件を解決して行く。
登場作品	長編「月光ゲーム～Yの悲劇“88～」 「孤島パズル」 「双頭の悪魔」 短編「焼けた線路の上の死体」 「老紳士は何故？」 「開かずの間の怪」(未読) 「二十世紀的誘拐」(未読) 
大好きな 江神二郎登場作品	「双頭の悪魔」 江神シリーズ長編第3作。江神さんの母親の予言等、彼の個人的事情はこの第3作に詳しい。 嵐により断絶されたつり橋。取り残された島の邸宅に住む奇妙な自称芸術家たち。島の奥深くある洞窟で起る連続殺人劇。これぞミステリーというシチュエーションに挿入されるせつな系人間模様。 大筋とは関係ないが、郵便局員がその何十年間に及ぶ配達員生活の道すがら、ひとつずつ集めた石で自分だけの城をつくる、そんな夢を語るエピソードがとても好き。 有栖川作品には時にちょっとはずれた長いエピソードが挿入されることがあるが、このへんも作者の好みを反映していて面白い。

そんでもって——村上春樹

春樹さんとはつい最近出会ったばかり……先輩ハルキストの教えを乞いながら、ゆっくり読んでいくつもりです。「物事を断定的に割り切らないということは無限の可能性を生むことだ。」と春樹さんの敬愛する作家フィッツジェラルドは言います。春樹さんの「僕」もきっとそういう人なのだろう、そんなふうに思っています。

これからもDOKU-GAKUで感想を書いていきますので、よろしくお願いします！！

健ちゃんの出版社テレカコレクション

〈第2回 趣味編〉

ー感動をポケットにー

N T Tがまだ電電公社と名乗っていた頃から続いている健ちゃんのライフワークです！

～健ちゃんよりひとこと～

テレカを集めるきっかけとなったのは、柳原良平の地方版『日本丸』のテレカを見たことです。地方独自でいろいろなものが出ているのを知って興味をひかれ、その頃、雑誌のテレカプレゼントにたまたま当選し、懸賞にも応募するようになりました。

〈野球〉



〈ラジコン〉



〈囲碁〉



〈将棋〉



〈カメラ〉



〈釣り〉



〈麻雀〉



〈クロスワードパズル〉



〈パソコン〉



〈アウトドア〉



〈音楽〉



〈映画〉



〈格闘技〉



〈煙草〉



〈パチンコ〉



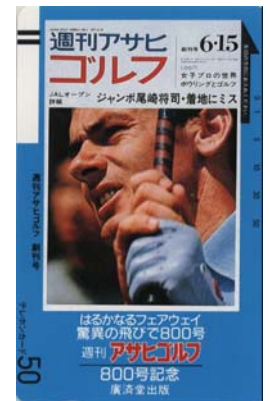
〈車〉



〈競艇〉



〈ゴルフ〉



〈競馬〉



〈旅行〉



〈登山〉



『趣味』と一口で言っても、とても幅広く、まだまだ見てもらいたいものもあるのですが、

今回はこのくらいで……

～健ちゃん幻の一品～

『ペントハウス』 創刊2周年記念。

電電公社時代のもので、今の価格は10万円ほど。

『明星チャルメラ』 沖縄方面で配られたトリの絵がかいてあるもの。

枚数が少なく希少価値はあるが、価格は高くない。

ラーメンが大好きで集めているので是非欲しい。

みなさんご協力お願いします！！

読書リスト(2000・2月・3月)

☆ つまらなかった

☆☆ まあまあ

☆☆☆ 面白かった

☆☆☆☆ とても面白かった

☆☆☆☆☆ とってもとっても面白かった！

006 うさお

題名	作者名	感想	評価
夜明け前の 殺人	辻真先	辻真先は今まであまり好きな作家では無かった。あまりにも器用な作家だったからだけれど、この作品、最近書かれたものの所為か悪くない。もちろん、島崎藤村を下敷きにした劇団もの。設定、題名は陳腐、これは損だなあ。	☆☆
新・ 日本神社 100選	臼田甚五郎 監修	知人の家の地図を見たら、周りを十数の神社が取り囲んでいた。知人には悪いが、この地には何かがある。何故、伊勢系や出雲系の神が守っているのだろうか？対立する神々の確執は？これは自分で持ちたい一冊。	☆☆☆
出雲の神々	上田正昭	上記の理由から図書館から借り出した一冊。	☆☆
陰陽寮	富樫倫太郎	ふん。面白いぞ、これは！夢枕漠と違う意味で、読ませる。分厚い冊子を短時間で読んでしまった。もちろん主役は、阿倍野清明。	☆☆☆☆
ガイア伝説	半村良	ガイア・・・大地を漢字で書けるということに気づいたときに、思い付いたように書かれた作品。半村良は好きな作家なんだけどな。	☆
天国の扉	篠原一	読めそうだったけど、読めなかった。あまりにも少年の血の出るような食い違いの若さ（陳腐！）を、観念的な詩のような構成で綴ったと思われる。数ページ読んでほっぽり捨てた。	☆
勇気凛々 ルリの色	浅田次郎	浅田次郎も本来あまり好きな作家じゃないけど、このエッセイは面白い。でも、あまりにも時期に即したテーマが多いので手垢のついたような話題に終始、この人、一貫したテーマは持っていないのかも？	☆☆☆
刹那の街角	香納諒一	この人は巧いなあ。本屋に置いてあっても地味なんで気が付かないことが多いのだけど、構成、筆力とも高村薫並み。毎回安心して読めるが、作品数が少ないので、つい同じものを借りてきてしまうんだよね。	☆☆☆☆
梟の巨なる 黄昏	笠井潔	おお、この作品、記憶が無いぞ。読んだんだろ？この人タイトルは面白そうなんだけど、読み下していくのに苦勞する人。今度じっくり読みたいと思っている。	(^^)

偽りの報酬	井上淳	ハードボイルドの典型を書く。外国ものが多いので、日本を舞台にしたものだけを選んで借りてくる。時間潰しには最適。	☆☆
タスク フォース	角田泰明	この人の医学ものは問題意識を持っていて、読み答えがあったが、それ以外はだめ。	☆
鉄塔武蔵野線	銀林みのる	知人が絶賛の本を図書館で見つけたので借りてきた。人工物だが鉄塔をずっと追っていくとそこに知性や意識やノスタルジーを感じるという。タイトルが素晴らしいぞ。	☆☆☆
エメラルド の罟	田中光二	話し巧者、和製インディジョーンズ。このシリーズはプロットが全部同じ。別の本の主人公の区別が付かなくなるが、大藪春彦の作品と同様で、スピードとアクションで見せる。	☆☆☆
漂泊戦士	森雅裕	ベートーベンだったかモーツアルトだったかの憂鬱以外のこの人の作品には、がっかりするなあ。映画にはよくなるみたいなんだけどね！！	☆
ターミナル マン	マイクル・ クライトン	さすがクライトン。面白いぞ！映画のようだ。この人の作品群を見て判ったんだけど、SFが多いね。そういう作家だったのね。この人の犬が主人公の作品が好きだ。	☆☆☆☆ ☆
江戸の敵	多岐川恭	作風が練れていて安心して読める。山本周五郎的な雰囲気も出てきたが、ちゃんとミステリー作家的な味つけもしてある。泣ける話もあるしねって、これは短編集です。	☆☆☆
永遠の仔	天童荒太	女の子が入院時に素裸になり海に入るシーンは、太古の禊をイメージさせ、父娘相姦が短絡的にイメージできたが、この父親を墜落死させたのが3人のうち誰なのかが巧みな語りで逸らかされてしまった。この子らのストイックさも精神のアンバランスを暗示させて凄い。高村薫、桐野夏生の世界にダブル。	☆☆☆☆ ☆
刑事たちの夏	久間十議	悪くなかった。刑事物だけど、刑事の類型的な設定だけど読める。	☆☆☆
ペルソナ・ ノン・ グラータ	夏樹静子	プロット、感性の衰退を感じさせる、この作家のこの頃。この人の情念はどうしたのだろう。普通の作家になったぞ。金儲けのための執筆かな？	☆☆
クロイツェル・ソナタ	夏樹静子	書いている時代は違うけどね！	☆☆
孤島	津村秀介	意外と見つけもの。プロットがいい。この人本屋によく並んでいるのだけど、あんまり買う気の起きない名前とタイトルですね（プッチモニ風）	☆☆☆
鹹湖	鳴海章	詰まらん！戦闘機もの以外はだめ、だめ！この人離婚してから本当に詰まらなくなった。作品が売れ始めたら女遊びをはじめ、離婚された。女に対して恨みがましくなった作品が多くなったぞ。	☆

002がみちゃん

氷雨心中 ☆☆☆	乃南 アサ	伝統工芸の世界を舞台とした短編集。 いくつかは、女の心の奥深いところとか激しい情念とかを見つけ出し題材にしている。乃南アサにでてくる女の人が好きです。 気持ちがストレートなんだもの。 ただありふれているといえあればありふれているんだけど、最後まで読めてしまうのはからっとしている文章のせいかもしれない。
水の中の 二つの月 ☆☆	乃南 アサ	こどもの頃いなくなった同級生に対してのトラウマの話。 出てくる3人の娘には何ら共感しないし、好きでもない。 あんたたちは勝手に不幸になりなさい、ってかんじかな。
悪意 ☆☆	東野 圭吾	悪意に満ちた男の話。そこには救いも何も未来もない。 人間いやなものを見たり、聞いたりしているとイヤな気持ちになる。何か救いになるものがほしい。東野圭吾が好きなのは読み終わっても未来が見えるから。このごろそれがなくなっていや。 それはそれとして、この人の殺意はどこにあるのかわからないもどかしさに、一気に読んでしまう。 途中止めたときも、この本のことが気になって気になって仕方なかった。
幻色 江戸ごよみ ☆☆☆	宮部みゆき	江戸の短編集。人情ホラーとでも言いましょうか……。しかし物足りない。人情話にしては、山本周五郎にかなわない。 ホラーにしたら中途半端。切なさか、やるせなさかもっとあればいいのに。切羽詰ってないんだよね。 宮部みゆきに私は求めすぎているのかなあ。

がみちゃんの映画道 その2

マトリックス	映画も面白かったけれど、音楽のインパクトには勝てなかった。 なんとなく想いだしたのは『ブレイド』。	☆☆☆☆☆ (音楽)
ライフ・イズ・ビューティフル	ビューティフル・ライフじゃないよ。(わかってるよね)。まくし立てたイタリア語を聞いて懐かしいやら、嬉しいやら。なんと心地よかったことでしょう !! 映画はアメリカ、なんてくそくらえ！	☆☆☆☆☆
海の上のピアニスト	辻褄なんてあわなくてもいい、これはおとぎ話なんだから。 このおとぎ話に説明なんて要らない。彼が死ぬときでさえ、幸せに見えた私って、満たされた生活してないんだなあと思った。	☆☆☆☆☆
シックス・センス	怖がりとは本質がわからないし、謎も見つけられないから損したと思う。(主人公の)あの少年はあの年にして、プロフェッショナル。	☆☆☆☆

《《 OMAKE 《《

『マトリックス』のサントラ盤、お奨めしたい。血が騒ぐぜい！

004 ちかちゃん

涙流れるままに (上・下) ☆☆☆	島田 荘司	殺人課の刑事、吉敷竹史ものの、超大作。冤罪の話と並行して、別れた妻の過去が絡む。話の重さとは別に、不謹慎にも、こりゃ大変な奥さん持ちちゃったなあと、思わずTVドラマ『高校教師』の真田広之を思い出してしまった。吉敷刑事は、孤立していても毅然といていて素敵なんだけど、御手洗 潔もののほうが楽に楽しめる。流行りなのか、たまたまなのか、トラウマものが近頃やけに多いですね。そんな時代、とひとまとめにする気はないけれど、それだけ今は、内面に向かっているということなのではないでしょうか。
ぼっけえ、きょうてえ ☆☆☆☆	岩井志麻子	表題作は、ぼっけえきょうてえ(すごく怖い)というより、古賀新一の世界のようで懐かしくて、最後の場面では、くすりと笑ってしまった。全編が土俗的な雰囲気、重苦しい話の連続。感情移入などする余地もなかったけれど、ずんずんと抵抗なく読むことができた。全編の雰囲気が似ているせいか、短編という意識とか、物足りなさはなかった。表紙と扉絵の、ぼっけえ、きょうてえに負けて、しばらく読めずにいたけれど、読んでよかったと、しみじみ・・・。 作者はこの小説で、それまでの20冊(!)の本とは路線を変え、この先も『悲惨な極楽、安らかな地獄』を書いていくという。楽しみです。
電車【train】 あるいは、「スラッシュ」 ☆	久美 沙織	作者の名前が怪しいと思ったら、中身もまさしく怪しいものだった。短い話のいずれもが、題名どおり電車の中の話。電車に乗っている人(登場人物)が、他には誰も気がつかないのに、何かを感じてしまい、違うところへいっちゃう。その短編の間に、もう一つの話が展開する・・・。電車とか、エレベーターの中の恐怖っていうのも、身近なものだし、本の帯には『電車の中では読まないでください』の注意書きまであって、期待感いっぱいでした。読み始めたものの、・・・なんて淋しい読後感。 怖いもののオンパレードだったから、かえって、怖さが伝わらないホラー話。好意的に考えれば、読み手の判断に任せるっていう事なんだろうけれど、書きっぱなしって感じ。
水の中の二つの月 ☆	乃南 アサ	おかしいなあ、困ったなあ。 何でこんな話ばかり続くんだろう。読む本の選択を間違えているのか、私の読解力の問題(それも確かに一因ではあります)なのか・・・。 この話も、これはトラウマの話でした、ちゃんちゃん。と括られるのなら、私はしばらく虎からも馬からも遠ざかりたい。
医者が末期がん患者になってわかったこと	岩田 隆信	副題に『ある脳外科医が脳腫瘍と闘った凄絶な日々』。TVのドキュメンタリーでも何回か紹介されてきた。自分が、専門家であるが故に、期待をうわまわる絶望。その絶望は想像のしようもないけれど、それがひどく残酷だということは伝わってくる。 『朝子〜』と、この本には☆印はつけられません。

朝子(A S A K O) 生命のかけ橋となって	間澤 洋一	留学先のアメリカで、交通事故に遭い、ドナー登録をしてあった意志に基づき、家族は臓器提供を決意する。この話は、新聞でも大きく紙面を割いて紹介され、その後も、雑誌やTVでも話題になった。 間澤朝子さんの24年の人生のアルバムと、『朝ちゃんポスト』に寄せられた友人知人からのメッセージ、家族との往復書簡・・・。 肝臓のレシピエントの女性の胸に妹が触らせてもらった時、その女性の『A S A K Oを感じるか』の問いに、お姉ちゃんは生きている、と妹は確信する。そんな風に癒されていくのかな。娘の追悼記を自分の設立した出版社(草炎社)で出すことになったお父さんもまた、出版することによって少しは癒されたのかな。
眠れぬ夜に読む本	遠藤 周作	霊的な話が苦手な私には、`眠れぬ夜には絶対読んではいけない本`でした。
月に吠える ☆☆☆☆☆	萩原朔太郎	今回の企画のおかげで昔の本の読み返しが続いています。 本は時代がかっているけれど、『青空文庫』からのダウンロードという画期的な読み方のミスマッチ。屋根裏から探すという気の遠くなる作業がパスできて、ラッキー。でもこれが小説だったら、読みにくいだろうなという気がする。それとも、何か違うやり方で読むのかな？ 『月に吠える』はずいぶんご無沙汰していたのに、結局どんなに時が経っても、好きな詩は一緒だった。 今回は、ぱらぱら読みしちゃったけれど、思い入れがあるので、評価は5つ星でいかせてもらいます。
国語入試問題必勝法 ☆☆☆☆	清水 義範	こんな題名だけど、短編小説。国語の問題文を読まずに答えを選ぶ方法まで書かれている。記述の問題って何でもこれが正解なの、ってことが実際によくあるから、こんな程度の考え方なのねと大人は納得する。N能研の批判のところでは、ちょっとときどき、胸にしみる・・・。 他に、お年寄りたちがボケの防止で始めたリレー小説の話がある。一人原稿用紙20枚ずつ書いて、順番に回して行って、4人目が書き終えて一つの小説にする、というやりかた。いつか私たちも、防がなくちゃいけないものが来た暁にはやってみようね。
墜落遺体 御巢鷹山の日航機 123便	飯塚 訓	宗教も哲学も何も存在しない。あるのは恐怖だけ。 あたりまえだけど、現実の話だから(読んでないけど)『リング』より『らせん』より怖い。こういう本を読んだときこそ、きちんとしたことを言わなければならないと思うのだけれど、言葉が出ない。もちろん☆もつけようがないです。
他力	五木 寛之	他力という、そのあとに本願という言葉をつけたくなるけれど、この本の他力とは、目に見えない自分以外の何か大きな力が、自分の行き方を支えているという考え方のこと。内容が宗教がかっていて、時間をかけても最後までではちょっと読めなかったので評価はなしです

佐伯祐三 絵と生涯 —パリに燃えつきた天才 画家の芸術— ☆☆☆☆☆	監修・朝日晃	運動神経がいい人と、絵が描ける人に憧れる。 漠然と佐伯祐三の絵が好きだった。この人の狂気は知ら れているところだけれど、裕福だったということに驚い た。この時代の画家ってというのは、貧乏だと疑わなかっ た。 こんな貧困なイメージしかもっていないから、絵が描け ないんだわ、私・・・。 でも、佐伯祐三の描くパリはほんとに素敵！壁に貼って あるポスターとか、ただの扉とか、レストランの入り口 とか・・・。その中に描かれているカリグラフィーの文字 がまたとてもいい。この本で初めて日本の風景の絵を見 たけれど、佐伯祐三にはやっぱりパリの裏道のほうが似 合うのでした。
団欒 ☆☆	乃南 アサ	軽い短編。このくらいなら、確かに女・赤川次郎って感 じ。 この人はこの路線のほうがいいと思う。
ひとりっ子の 深層心理がわかる本 ☆☆	田村 正晨	一人娘と母親の関係、なんてちょっとドキッとするけれ ど内容は、「そんなあほな！」。この手の本で納得するこ とって少ないのかも・・・。こういう本を1冊読んでひと りっ子の気持ちが少しでもわかる、わけないよね。
海の瞳 一原口統三を求めて— 清岡 卓行 ☆☆☆☆☆ 2回の引越しでも手元に置いておいた本。肝心の原口統三の『二十歳のエチュード』は私には難解 だったせいか、原口統三の生き方を書いた『海の瞳』のほうが、原口統三を知ることができた。 この本を初めて読んだとき、私は原口統三とほぼ同じ年だった。長い時を経て改めての読み返し。 気がつくと、読みながら眉間にしわが寄っていた。長い時の間に、読み手の私の『同世代』だった原 口統三は、『子供』といってもおかしくない原口統三に変わってしまったのだから、眉間にしわが 寄るのも、仕方のないことなのかもしれない。—こんな『子供』じゃ、辛すぎる。 淡い恋心を抱いた(こういう言い方は、原口統三の嫌うところだろうけれど)音楽家を志望する少 女にピアノを贈るために、『二十歳のエチュード』1冊だけを遺し、そのほかの詩や散文を破棄し てしまう。そして<死への純粋な志向と生への熱い意欲のせめぎあい>の結果、あと3ヶ月で二十 歳を迎えるというときに、逗子の海で自殺をする。 死を、残されている新しいもの、と表現し、死ぬことばかりを思っていた原口統三。 その死は<精神の純潔の極限を求めるという不可能な命題を自らに課し、その不可能へと接近し てゆく歩み>と解説されている。そしてまた、青春と一緒に暮らした清岡卓行を<この世のものとも 思われぬ理由で自殺してしまった>と、嘆かせる。<死への親愛感><青年らしい憂鬱の哲学> は、ある時期多くの人たちも持っていた思いだからこそ、青春のときを乗り越えることができれば、死ぬことへの呪縛も和らいだのじゃないかと、凡人は考えてしまう。この世紀末を、新しい言葉 で原口統三に語ってもらいたかった、と死後50年以上経って読み返した今も、思う。 蛇足だけれど、『二十歳のエチュード』の爆発的なヒットで出発資金を作り、若い詩人たちの詩集 を出版した『書肆ユリイカ』を出すことができたということが、原口統三の慰めになるように思う。		

003 あみちゃん

犬のしっぽ		いぬの写真集。かわいいつつ。 赤瀬川原平が「いぬのしっぽはなんの機能も持たない。ということは、あれは文化的装置なのか？」と書いていた。赤瀬川原平、おもしろいなあ。 わたしも役立たずのしっぽが欲しい。	☆☆☆
鍵のかかった部屋	ポール・オースター 柴田元幸訳	* 美しい妻と傑作小説の原稿を残して失踪した友を追う「僕」の中で何かが壊れていく・・・* ニューヨーク 3 部作の完結篇。	☆☆☆☆
かんがえる人	原田宗典	つついっ性で買ってしまう原田ムネノリ。 昔はおもしろかったけどねえ。	☆☆
富士山	さくらももこ	「富士山」第2号には「コジコジ」の新作が載るらしい。たのしみ♪	☆☆
羊をめぐる冒険	村上春樹	* ある日届いた〈鼠〉の手紙から、「僕」の羊をめぐる冒険がはじまる・・・* 「風の歌を聴け」、「1973 年のピンボール」に続く〈鼠〉シリーズ第3作。 春樹さんにしてはめずらしくストーリー的な「結末」がある。だからというわけじゃないけど、これはちょっと肌触りがちがう気がしたなあ。	☆☆☆
わからなくなってきました	宮沢章夫	野球実況のアナウンサーが発する「わからなくなってきました！」という叫びはいったいなんなのか？などなどの素朴なギモンを真面目なのか不真面目なのかわからない名調子で論じていく章夫節。 笑いのツボを地味～に刺激。 宮沢章夫は朝日新聞の連載もおもしろいです♪	☆☆☆
すんごくスバラ式世界	原田宗典	やっぱり性で買ってしまう原田ムネノリ。 昔はおもしろかったけどねえ。	☆☆
闇に消えた怪人～グリコ・森永事件の真相～	一橋文哉	* 江崎グリコ社長誘拐事件に端を発した一連のグリコ・森永事件。遂に完全時効をむかえた事件の真相に迫るノンフィクション* 新聞、テレビなどでは知り得ない情報が盛りこまれ、事件の闇の深さを知ることができる。ただ、リアルタイムで事件を知らない読者としては事件の経過をもうすこし丁寧に説明して欲しかった。 宮崎学（「キツネ目の男」として警察にマークされていた人物。）のファンなので、この本を読んだ。 宮崎学がTVで「僕のファンは僕がキツネ目の男であって欲しいと思っているようだ」と言っていたけれど、私ももちろんそのひとり。でも、この本を読む限りではそのあたりは「？」なんだなあ・・・。	☆☆
都市の記憶～横浜の近代建築(I)～	横浜市歴史的資産調査会	* 横浜に 1860 年代～終戦までに建てられた洋風建築をまとめた写真集* ジャックの塔、クイーンズの塔、赤煉瓦倉庫などの有名どころから、なかなか渋い民家もカバーしている。これを見てから関内、桜木町周辺を散歩したらたのしそう。	☆☆☆☆

連合赤軍 「あさま山荘」事件	佐々淳行	＊ 「あさま山荘」事件とは一体何だったのか？ 現場で指揮をとった著者のメモを元に戦後警察史上最悪の事件の一部始終を再現したノンフィクション＊ 連合赤軍はオウムに似てるな、と思った。 思想で繋がった組織というのはああやって自壊していくしかないのかもしれない。 そもそもこの本を読んだのは、フジ深夜の「日本のよふけ」というトーク番組で佐々さんが現役時代に扱ったいろいろな事件について話すのを聴いたから。佐々さんはものすごい切れ者で、そのうえ話もおもしろい。このとき以来佐々さんに夢中。	☆☆☆
最後の物たち の国で	ポール・ オースター	＊ アンナが行方不明の兄を探して乗りこんだのは、すべてのものが失われていく悪夢のような国だった・・・＊ アンナの置かれた状況はとんでもなく非現実的なのに、アンナの言葉や行動はまっすぐにこちら側に届いてくる。読み終えた後に、かすかな希望を感じさせる物語。	☆☆☆☆
1095	スガシカオ	デビューから現在までの 1095 日間に発表された詞を年代順にまとめたスガシカオの詩集。皆様には SMAP の「夜空のムコウ」がおなじみでしょう。	☆☆☆☆☆
1096		スガシカオの3周年記念ライブの限定パンフ。ファン必携の1冊。	☆☆☆☆☆
文学界	雑誌	大塚英志の評論「庄司薫とサブ・カルチャー文学の起源」というのを讀んだ。 春樹小説を構造から理解しようとするほど無意味なことはないのだよ！大塚クン。	☆
気まづい二人	三谷幸喜	三谷幸喜の対談集。人見知りの三谷幸喜が毎回毎回「緊張しそうなゲスト(女性限定)」を選んで対談をし、人見知りを克服しよう！という企画。 話の内容じゃなく、「間」をたのしむための対談集。	☆☆☆

005 かよこちゃん

題名	作者名	感想	評価
グレート・ギヤツビー	スコット・フィッツジェラルド	フィッツジェラルドが生きた1920年代という時代背景と共に、「僕」の目から見た隣人ギヤツビーの一途な恋の物語。 ギヤツビーという人物は、人生の中に希望を見出す高感度の感受性を持ち、その希望、夢の究極に「愛する人」を位置づけている。その彼の夢をくいものにするように彼のまわりに集まる人々。夢そのものが夢とまらない現実。気怠い虚無感のようなものが全編を彩るが、物語の語り手である「僕」が、ギヤツビーを唯一理解していたことに救われる気持ちがする。 冒頭、ラストの文章が感慨深い。	☆☆☆☆
「死ぬ瞬間」と臨死体験	エリザベス・キューブラー・ロス	死と死の準備について語る女性精神科医の講演会の記録。 スイスの典型的な家庭の三つ子の一人として生まれた彼女は、幼い頃から自分の(人間の)存在意義というものを考えつづけ、それを生涯の仕事として活かしてきた人である。 死を迎えることについて語りながら、同時に生きることについて深く語っている。 「死ぬ瞬間」シリーズの作者として有名だが、シリーズの中では、本作と「人生は巡る輪のように」が突出して面白い。求めさえすれば、私達はこんなにも愛が溢れる人になれるのだということを、優しく教えてくれるような気がする。	☆☆☆☆☆
ゆるやかな絆	大江健三郎	ちょっと固めのエッセー。難解だと評判の作者だが、この位だと読みやすい。 ゆるやかで人を束縛することは少しもなく、その両端にいる同士はお互いに密やかな敬愛の心を抱いている…そんな絆を求め、実行する作者の気持ちがとても優しく感じられる。 小説の書き手であるだけでなく、とても熱心な読み手でもある彼が、小説の読み方について「自分が生きて行く道すじで受け身でひっかぶらざるを得ない困難をどう生き延びるか？その手だてを探し、選んだ本のかたまりにすがりつく」、そんなふうに語っています。本をどのように読むか？そのひとそれぞれのことだけれど、「真剣に読む」そんなことが大切なんだなあと思ってしまいます。	☆☆☆☆
ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック	村上春樹	まるごとフィッツジェラルド。縁の地を訪ねて行く第1部、青春から成功、破滅、崩壊への道のりを綴った第2部、春樹さん自身が翻訳している短編小説2編が載っている第3部。もちろん読者も楽しめるが、村上春樹本人が誰よりも楽しんでつくったのではないかと感じられる思い入れ溢れる一冊。こんなふうに敬愛する作家に捧げる本をつくることのできる春樹さんがうらやましいです。	☆☆☆☆

最後の物たちの 国で	ポール・ オースター	物はどんどん失くなっていき、何も生産されず、子供も生まれぬ、そんな国に入り込んだ女性から、もといた国に向けて、届くあてもなく綴られる手紙。村上春樹「世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド」、映画「ブレッドランナー」が思い出される。何もかもが崩れて行く中で見えてくるもの。女主人公はどんな状況にあっても希望という無限の可能性を失わずにいるようだ。	☆☆☆☆
レキシントンの 幽霊	村上春樹	短編集。 失くしてしまったもの、手に入れたもの、そんな事を繰り返しつつ生活して行く中で、本当に心底全てを失くしてしまったと思う気持ちは、一体どんなものなのだろう？ 圧倒的な喪失感を抱え、なお生きていかねばならない怖さを綴った作品たち。	☆☆☆☆
村上春樹、 河合隼雄に 会いに行く	村上春樹	「ねじまき鳥クロニクル」を書き上げてすぐに行われた、心理学者河合隼雄との対談集。 なぜ小説を書くか？小説をどのように書くか？などが自らの言葉で語られ、改めてまたハルキワールドに引き込まれてしまう。 「デタッチメント(関りのなさ)から始まり、物語があり、今はコミットメント(関り)について考えている。井戸を掘って掘って掘っていくと、そこでまったくつながるはずのない壁を越えてつながる、そんなコミットメントのありようにひかれる。」まさしく「ねじクロ」だなあ……。	☆☆☆☆☆
幽霊たち	ポール・ オースター	不思議な小説だ。最初にははっきりと別の人格で登場した人物たちが、次第に影を薄め、混ざり合い、タイトル通り「幽霊たち」になっていく。 三人称の小説でありながら、ラストの数行が「我々」という主語により語られるが、それは作者自身と読者を指しているように思う。小説の中に入り込んだ感覚とともに、何だか私達だって幽霊みたいなもんじゃないか、そんなふうに言われているような気がする。 前号でのあみちゃん紹介本。面白かったです。	☆☆☆☆
鍵のかかった 部屋	ポール・ オースター	「彼は僕にとって全てがはじまる場であり、彼がいなければ自分が誰なのかよくわからない」、そんなふうにいる「幼なじみ」の妻からある日手紙が届く。そして彼の失踪を知り、彼の残した小説を出版する事を依頼される。失踪した友人を追いながら、次第に「僕」と「彼」が一人の人間に収束されていく。追っているのか？追われているのか？混沌とした思考の中、「僕」は「鍵のかかった部屋」で僕自身と出会う事になる。作者であるオースター自身が、自分の中に住む「彼」と「僕」の折り合いをどうつけていくかを克明に書いた作品、というふうにも思える。自分の存在を確認するということはなんて難しい事なんだろう。	☆☆☆☆☆

偶然の音楽	ポール・オースター	原題「The Music of chance」 邦訳タイトルがとってもいいな、と思う。 降って湧いたように父親の遺産を手にした男が新しい車を買ってひたすら疾走する。旅を終わりにする機会はふと訪れ、彼は知り合った男と二人、アイルランドから運ばれてきた、もとは城が形成されていた1万個の石で壁を作る作業に従事することになる。男はその仕事を素直に受け入れ、「壁は罰というよりむしろひとつの治療だった。」とつぶやく。そして毎日同じ作業を繰り返し、壁がだんだんと高くなっていく事に喜びを感じ、一種の達成感までも抱くようになる。物語は唐突に終わる、という印象があるのだが、男が最後にどう思うのか、どこへ行こうとしていたのか、そんな事も知りたかったように思う。	☆☆☆☆
建築探偵 神出鬼没	文・藤森照信 写真・増田彰久	古き良き建物を訪ね、写真と文章で紹介している。学校、ホテル、病院、駅舎など、いろいろな場をカメラは切り取って見せてくれる。	☆☆☆
あなたが選んだ 日本の灯台 50選	社団法人 燈光会	前号であみちゃんが紹介した「日本の灯台」姉妹誌。灯台はいつも健気に自分の役目を果たしている、そんなところもいいね。	☆☆☆
建設業界	日本土木 工業協会	月イチ発行の業界雑誌。 文・窪田陽一、写真・三沢博昭さんによる連載フォト・エッセーが面白い。狭い日本、なんて言ったら知らないところばかりなのね！	☆☆☆

がみちゃんの映画道 その3 ビデオ編

バウンド	ジーナ・ガーションを一目見て私の捜していた女はこれだ！って思った。情婦ヴァイオレットの強かさ、巧妙さも私をうならせた。空間があって音が少なくって、フランス映画を見ているみたい。 ひとつひとつに凝っていていい！いいもん見せてもらいました。	☆☆☆☆
ブレイド	B 級映画でもすごくカッコイイ！ 『マトリックス』よりカッコよかった。	☆☆☆☆☆
HANA－ B I	どうしても身が竦む暴力はいやだ！それがたとえ映画であっても・・・北野武そういうのがうまいといふかなんといふか、私を震え上がらせる。あのリアルな暴力に私はなじめない。 でも好きだなあ、これもありか、と思う私。たった一言で(たった一場面)で忘れられ	☆☆☆

なくなるような、そんな映画ももっともって作って欲しい。

ちょっとひと息-coffeebreak

かよこちゃんから〈私の大好きなアルバム〉紹介です

Mr. Children「深海」

1996・6・24リリース



ス

名もなき詩

作詩：桜井和寿 作曲：桜井和寿
編曲：小林武史 & Mr. Children

ちょっとぐらいの汚れ物ならば
残さずに全部食べてやる
Oh darlin 君は誰
真実を握りしめる

君が僕を疑っているのなら
この喉を切ってくれてやる
Oh darlin 僕はノータリン
大切な物をあげる

苛立つような街並みに立って
感情さえリアルに
持てなくなりそうだけど

こんな不調和な生活の中で
たまに情緒不安定になるだろう？
でも darlin 共に悩んだり
生涯を君に捧ぐ

あるがままの心で生きられぬ弱さを
誰かのせいにして過ごしている
知らぬ間に築いていた
自分らしさの檻の中で
もかいているなら
僕だってそうなんだ

どれほど分かり合える同志でも
孤独な夜はやってくるんだよ
Oh darlin このわだかまり
きっと消せはしないだろう

いろんな事を踏み台にできたけど
失くしちゃいけない物が
やっと見つかった気がする

君の仕事が滑稽なほど
優しい気持ちになれるんだよ
Oh darlin 夢物語
逢う度に聞かせてくれ

愛はきっと奪うでも与えるでもなくて
気が付けばそこにある物
街の風に吹かれて唄いながら
妙なプライドは捨ててしまえばいい
そこからはじまるさ

絶望、失望 (Down)
何をくすぶってんだ
愛、自由、希望、夢 (勇気)
足元をぐらんと揺らぐと転がってるさ

成り行きまかせの恋におち
時には誰かを傷つけたとしても
その度心いめる様な時代じゃない
誰かを想いやりやあだになり
自分の胸につきささる

だけど
あるがままの心で生きようと願うから
人はまた傷ついてゆく
知らぬ間に築いていた
自分らしさの檻の中で
もかいているなら誰だってそう
僕だってそうなんだ

愛情ってゆう形のないもの
伝えるのはいつも困難だね
だから darlin この「名もなき詩」を
いつまでも君に捧ぐ

1. Dive
2. シーラカンス
3. 手紙
4. ありふれた Love Story
～ 男女問題はいつも面倒だ
5. Mirror
6. Making Song
7. 名もなき詩
8. So Let's Get Truth
9. 臨時ニュース
10. マシンガンをぶっ放せ
11. ゆりかごのある丘から
12. 虜
13. 花 ～Memento-Mori～
14. 深海

重く暗い音とともに、
深海に引き込まれて行く感覚
海の底で出会うのは誰？



表紙は語る

〈今月の表紙〉

Mr. Children「名もなき詩」譜面
を包み込むように

DOKU－GAKU掲示板

桜の季節です。

新たなスタートラインに立つ人たちもきっと多い事でしょう。

我らがDOKU－GAKUも新企画がつぎつぎ登場！

そして新人会員さんの入会がありました！！

新しい風が吹いています。

では恒例の会員から会員へのメッセージから紹介します。

がみちゃんからみなさまへ♪

『陰陽師』友人が持っていました。岡野玲子の絵が平安京の時代にタイムスリップさせてくれます。とっても面白い、でも難しい。あの時代をよく知っている人ならもっと楽しめると思います。皆様、情報ありがとうございました。

がみちゃんより健ちゃんへ♪

『ラムの大通り』でブリジッド・バルドーを、私はもうおしまいだと思ったんだけど・・・。
私フランス映画かぶれだったからかしら？
案の定、捕鯨反対なんて毛皮着て言ったりして、訳わかんなくなっちゃって・・・
とっていました。

ちかちゃんより健ちゃんへ♪

世の中に存在するものなら、浜田さんのテレカください。
『ぴあ』のテレカと交換可。

健ちゃんよりがみちゃんへ♪

かねて貸出し希望されていた赤いペガサス
見つかりましたのでいつでも貸出しOKです。

かよこちゃんよりみなさんへ♪

読書リストで紹介させてもらった、E・キューブラー・ロス 「死の瞬間」シリーズが、

「月刊YOU」で連載されています。漫画化されるなんてびっくり！！

あみちゃんよりがみちゃんへ♪

前号の「陰陽師」について補足：あの文章は夢枕獏「陰陽師」の解説です。

あみちゃんよりみなさんへ♪

前号の映画ベスト5で紹介した映画「ノッキン・オン・ヘブンス・ドア」が
4月7日レンタル開始です。

「ロック、ストック&トゥー・スモーキング・バレルズ」は既にビデオ化されています。
どちらもおすすめです。

第3号感想です。

ちかちゃん♪

会長の健ちゃん、満を持して登場しましたね！

これでまた、よりいっそう、個性的なページが増えていくことでしょうね。

ところで、私、会員でありながら、3号では、すっかり読者の気分になりました。

がみちゃんには、早くも引退かと、心配をかけたくらいです。

みんなの強烈な偏り、じゃない、個性に圧倒されました。

これからも私は、熱心な読者、あるいは、DOKUGAKUのファン、と立場を変えつつ
も、細々と皆様のあとをついていきます。

健ちゃん♪

特別企画『映画BEST5』はみんな気合いが入っていて、読書の会というより
映画好きの集まりって言う感じだった。映画はいいよね。

ちかちゃんより

インターネット読書法の紹介です。

読書も進化していくのですね。

「今回の『月に吠える』は青空文庫からダウンロードして読みました。

青空文庫とは、無料公開のインターネット電子図書館です。

著作権の切れた作品と、「自由に読んでもらってかまわない」とされたものを、
テキスト、HTML、エキスパンドブックの三つの形式でそろえています。

まだ私は、細かな利用法を学習してないけれど、新しい読書の仕方なので、
紹介してみました。

私もいつかは、青空文庫の作業員(本を打ち込む人)になりたいと思います。」

さて
DOKU-GAKU総務よりお知らせです。

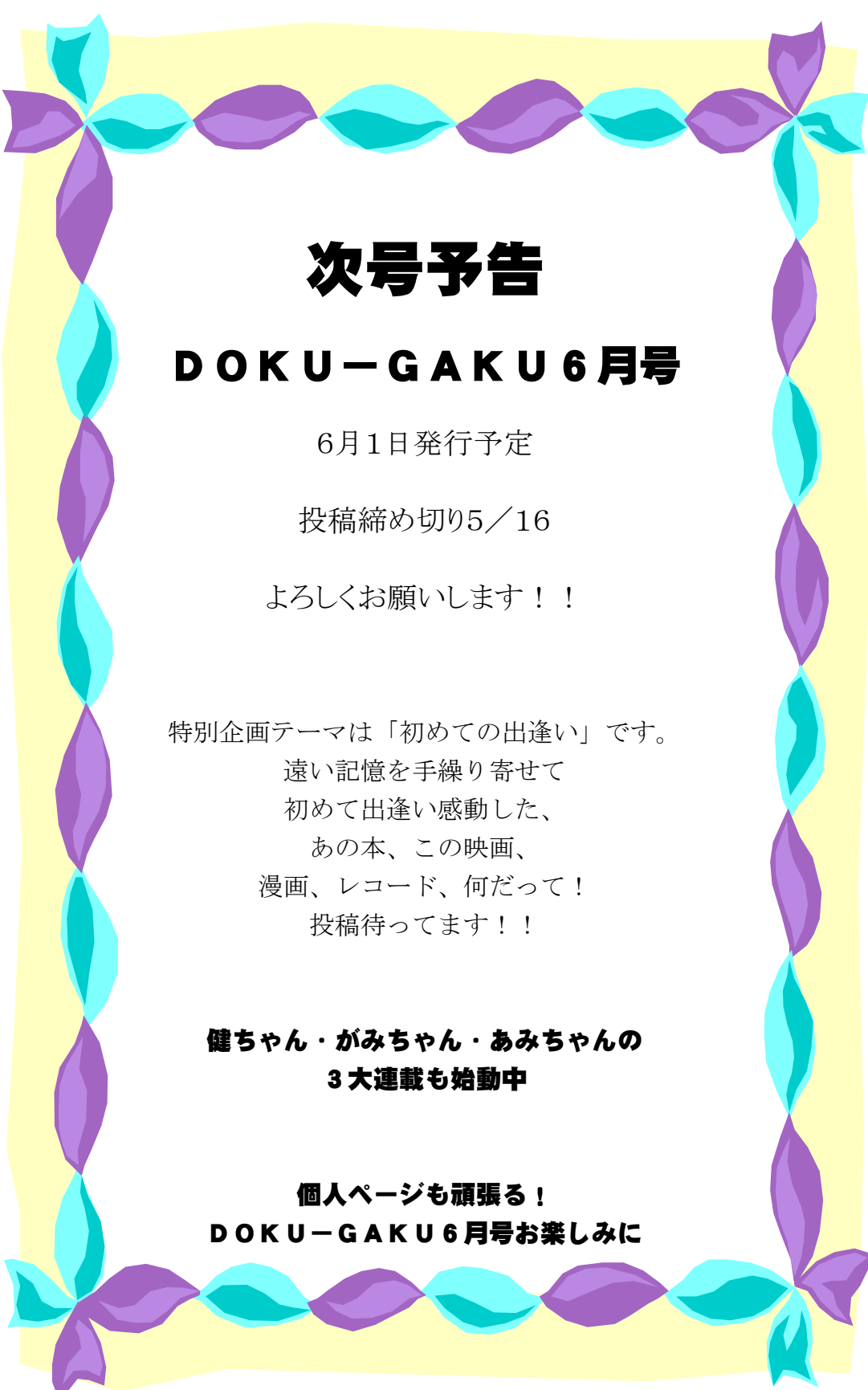
総務よりみなさんへ♪

- 会計・ちかちゃんが企画も兼任してくれることになりました。
- 『こんな本まで読んじゃった！！』というコーナーを新設したいと思います。
あんなに分厚い本を読んだことがある、という自慢。
題名にだまされて読んだら、まるで想像と違った、という愚痴。
まさかこんな本を読むなんて！と自分で自分に思わず言いたくなるような本。
自分にとっても意外なあんな本、こんな本。投稿待ってます。
- 特別企画テーマ、4月号感想なども、引き続き募集中。よろしく。
- DOKU-GAKU読者である、かずみちゃんより、切手カンパありました。
X “mas”にはポケットティッシュケースを会員のみんなに作ってくれました。
感謝です。

気合の入った個人ページが並んだ4月号、
如何でしたか？
個性派ぞろいのD-G会員
新人会員さんも加わって、これからもどんなページが登場してくるのか
本当に楽しみです。

ではまた次号で。

2000年4月1日発行
発行人 読書を楽しむ会
表紙 『名もなき詩』譜面
印刷・製本 M"s factory



次号予告

DOKU-GAKU 6月号

6月1日発行予定

投稿締め切り5/16

よろしくお願いします！！

特別企画テーマは「初めての出逢い」です。

遠い記憶を手繰り寄せて
初めて出逢い感動した、
あの本、この映画、
漫画、レコード、何だって！
投稿待ってます！！

**健ちゃん・がみちゃん・あみちゃんの
3大連載も始動中**

**個人ページも頑張る！
DOKU-GAKU 6月号お楽しみに**